令和４年２月21日発行

栗原普及センターだより「くりはら」

150号

園芸産出額の増大に向けて

栗原地域の農業産出額は237億円（令和元年度）で，米と畜産で約９割を占めています。米については，新型コロナウイルス感染症の影響で外食需要が縮小して主食用米の民間在庫が膨らみ，令和３年産米のJA概算金単価は前年比25%低下しました。

令和４年は，需要に応じた米の生産と農業所得確保のため，これまで以上に園芸作物の生産拡大が重要になります。

栗原管内では，令和３年度農林産物品評会・花き品評会で農林水産大臣賞を２人の方が受賞しており，品質の高さが評価されています。ぜひ，収益性が高く，特色ある園芸品目の栽培に取り組んでみませんか。

令和３年度宮城県農林産物品評会
農林水産大臣賞受賞・片倉栄治氏のねぎ

PROJECT プロジェクト活動 R3完了課題紹介

課題紹介 1　きゅうり生産の見える化による栽培技術のレベルアップと産地生産力の強化

きゅうり生産者 4 戸及び 1 法人 (栗原市志波姫・若柳地区) を対象に，令和元年度から 3 年間，互いのハウスの視察や，目標設定シート・栽培振り返りシートを活用した継続的改善手法 (SPDCA) の取組により，栽培技術の向上を図ってきました。

令和 4 年 1 月 18 日 (火)，これまで各生産者が取り組んできた内容とその成果について報告し，相互共有するため，きゅうり栽培振り返り報告会を開催しました。報告会ではそれぞれが実践した品種の比較や栽植密度の検討，環境制御などの取組について，生産者自ら成果や感想を報告し，意見交換が行われました。

この 3 年間で生産者に定着した SPDCAサイクルを今後も実践することで，更なる技術力の向上につながることを期待します。

きゅうり栽培振り返り報告会

課題紹介 2　農地整備を契機に設立した農事組合法人の営農モデル構築

若柳・八木地区の農事組合法人やつきファームを対象に，地域の担い手として期待される集落営農組織の法人化モデルとなるよう，農地集積や法人の運営，基幹作物としての大豆栽培技術の定着・向上等について関係機関と連携し，支援しました。

農地中間管理事業を活用した農地集積計画では，構成員の理解の醸成支援を実施，関係機関の支援のもと，ほぼ全員の同意を得ての事業活用ができました。

基幹作物と位置づける大豆は，水稲・大豆・飼料用米によるブロックローテーションの取組のもと，基本技術に沿った栽培を心がけ，目標収量も達成できました。

法人としての活動も本格化し，長期運営計画に従い，基幹作物の大豆の栽培面積も増えてきました。今後も，集落営農組織から発展した法人の諸々の課題解決支援を行っていきます。

大豆の収穫作業

課題紹介 3　スマート農業技術の活用による土地利用型作物の生産性向上

志波姫地区の農事組合法人 i ファームを対象とし，令和元年から 3 年間，スマート農業技術や GAP 実践などを通じて土地利用型作物 (水稲，大豆，キャベツ) の作業効率化や収量の向上を支援しました。

本年度は，①スマート農業技術の活用支援，②土地利用型作物の栽培技術の向上支援，③ ICT ツールを用いた GAP の実践支援に取り組みました。①では，ドローンや衛星画像を活用したリモートセンシングと，その生育診断に基づく追肥の実施を支援しました。法人ではドローンを活用しており，病害虫防除や生育診断に基づく追肥の実施が定着しました。②では，大豆ミヤギシロメの蔓化・倒伏を防止するための疎植栽培の導入について支援を行ったところ，蔓化・倒伏が軽減され，増収効果がみられました。③では，JGAP 対応の ICT ほ場管理システム (ヤンマー (株) スマートアシスト) を導入・運営を支援した結果，水稲・大豆・キャベツの作業記録の入力が定着し，農薬管理等の GAP の実践が定着しました。(農) i ファームでは，今後もスマート農業技術の活用や GAP の実践を通じ，一層の省力化と作物の生産性向上をめざしていきます。

GAP 実践支援

大豆生育調査

農作業事故防止に努めましょう！

普及センター活動紹介

栗原市若柳に「農事組合法人ふくおか」が設立されました

令和３年12月16日（木），栗原市若柳に「農事組合法人ふくおか」が設立されました。

平成19年に集落営農組織として設立した「福岡営農組合」（組合員数54人）を中心に令和２年６月に準備委員会，令和３年９月には発起人会を立ち上げて準備を進めた結果，組合員数34人での法人設立となりました。

水稲と大豆を中心に，農地中間管理事業を活用して農地集積・集約化を図るとともに，後継者の積極的な雇用を計画しており，地域の農業を担う法人として，更なる発展が期待されます。

農事組合法人ふくおか設立総会

ふさすぐりの商品開発及び地域連携活動

栗原市花山地区では，特産のふさすぐりを活用した地域活性化の取組を進めています。10月７日（木）には公益財団法人仙台市産業振興事業団ビジネス開発ディレクターのカワシマヨウコ氏を講師に生産者，販売者，高校生など幅広い年代が参加し，スイーツ商品の販売に向けて検討会を行いました。その結果，ギモーヴ，ダックワーズ，もちプリンの3商品が商品化されました。

この取組は，栗原市内の菓子店が花山地区で生産した花山ルビィふさすぐり使ったスイーツを開発し，一迫商業高等学校商業研究部が店舗に掲出する商品説明ポップ等を制作，花山地区の道の駅や宿泊施設で販売する栗原コラボ企画となりました。農業改良普及センターでは地域連携による地産地消の取組を支援していきます。

商品化されたふさすぐりスイーツ

技の伝承　～リーダー研修会・ルーラルガイド講習会～

令和３年11月10日（水），栗原市築館農村環境改善センターで，栗原市生活研究グループ連絡協議会のリーダー研修会・ルーラルガイド講習会を開催しました。

これは農山漁村の豊かな生活や風景を生かし築き上げてきた技術を，グループ員に広く伝達することを目的に開催したもので，今回は各地区連のリーダー15人が参加し，「クラフトテープを活用した生活小物」の作成実習を行いました。

「クラフトテープ」は牛乳パックなどの再生紙でできている紐のことで，元々は米袋の紐として使われていました。現在は手芸用としてカラーバリエーション豊富に揃っており，藤や萩などの植物の蔓に比べ，入手及び加工がしやすく，それでいてラタンのような風合いが出ることから人気が高まってきている手芸の一つです。今回は初心者でも取り組みやすい，小かごを製作しました。

参加者は，手先も頭も使い，編み込みに四苦八苦しながらも，作品ができあがると，今度はどんなものを入れようかと頭を巡らせていました。

細やかな指導を受ける参加者と完成品の小かご

農薬は登録内容をよく見て使いましょう！

令和３年度宮城県農林産物品評会・花き品評会で農林水産大臣賞をダブル受賞！

令和３年 10 月 23 日 (土)，24 日 (日) にせんだい農業園芸センターにおいて，令和３年度宮城県農林産物品評会及び花き品評会が開催され，農林産物品評会野菜部門でねぎを出品した片倉栄治氏 (瀬峰)，花き品評会でディスバッドマムを出品した髙橋伸勝氏 (一迫) が見事に農林水産大臣賞を受賞されました。

農林水産大臣賞は両品評会で４点選出され，うち２点を栗原管内が占める快挙となりました。

このほかにも下表の５人の方々が受賞され，栗原市産品の品質の高さをアピールすることができました。

受賞された皆様，おめでとうございました。

片倉栄治氏（左）と髙橋伸勝氏（右）

【受賞結果一覧】　（敬称略）

	部　門	受賞内容	受賞品目	受賞者名
農林産物品評会	野菜（葉茎菜類）	宮城県知事賞１等・農林水産大臣賞	ねぎ	片　倉　栄　治
	野菜（果菜類）	宮城県知事賞１等・農産局長賞	トマト	有限会社 サンアグリしわひめ
	水稲（うるち玄米）	宮城県知事賞３等	ひとめぼれ	有限会社 狩野農友
	〃	〃	〃	株式会社 伊藤農場
花き品評会	花き（切り花）	金賞・農林水産大臣賞	ディスバッドマム	髙　橋　伸　勝
	花き（花壇用苗もの）	銀賞	パンジー	瀬　戸　明　寛
	花き（切り花）	銀賞	スプレーぎく	白　鳥　拓　也

有限会社　川口グリーンセンター (一迫) が全国優良経営体表彰を受賞！

農林水産省及び全国担い手育成総合支援協議会は，意欲と能力のある農業者の一層の経営発展を図るため，農業経営の改善や地域農業の振興・活性化に優れた功績を挙げた農業者を表彰しています。

宮城県農政部長から賞状を受け取った白鳥代表取締役（左）

この度，販売革新部門において，指導農業士の白鳥正文氏が代表取締役を務める有限会社川口グリーンセンターが全国担い手育成総合支援協議会会長賞を受賞しました。同社は一迫地区の「清水目機械利用組合」を前身として平成 13 年に設立したのち，平成 24 年に米粉事業部を設立，米粉パンなどを自社店舗のほか，地域の農産物直売所や量販店，病院等で販売してきました。また，米の約９割を直接販売が占め，贈答や外食用も年々販売実績を伸ばしており，近年は米国の外食向け輸出にも取り組んでいます。

これら革新的な米販売への取組が高く評価された結果です。

おめでとうございます！

栗原農業改良普及センター　〒987-2251 宮城県栗原市築館藤木5-1 Tel:0228-22-9404 FAX:0228-22-6144

この「普及センターだより　くりはら　第 150 号」は、900 部印刷し、1 部あたりの単価は 28.8 円です。